

腱損傷機能評価表の記載法

I. 指屈筋腱機能評価

測定は、関節を特定の肢位に固定しないで、全指を同時に伸展ないし屈曲させた時の角度を測定する。ただし浅指屈筋腱の場合は他指過伸展位で測定する。

指屈筋腱の総合的機能評価は B と C を併記することが望ましい。その理由は B または C のみでは同じ ROM でもその領域によって指の機能上の価値に差がある点が無視されるからである。しかし、目的に応じていずれか一方を用いることができる。

A. 長母指屈筋腱の機能評価

$$\text{長母指屈筋腱機能度 (\%TAM)} = \frac{\text{患指 IP} \cdot \text{AM} + \text{MP} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 IP} \cdot \text{AM} + \text{MP} \cdot \text{AM}} \times 100$$

B. 示～小指屈筋腱の機能評価

$$\text{浅指屈筋腱機能度 (\%)} = \frac{\text{患指 PIP} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 PIP} \cdot \text{AM}} \times 100$$

$$\text{深指屈筋腱機能度 (\%)} = \frac{\text{患指 DIP} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 DIP} \cdot \text{AM}} \times 100$$

C. 特定指浅指, 深指屈筋腱総合機能度 (%TAM)

$\frac{\text{患指 TAM}}{\text{対側指 TAM}} \times 100$	90%以上	優	E
	75%以上	良	G
	50%以上	可	F
	50%未満	不可	P

注：対側指 TAM が異常な場合は、その正常値を
 $\text{MP} + \text{PIP} + \text{DIP} = 80 + 110 + 70 = 260$ 度とする。
 TAM Total Active Motion
 AM Active Motion

II. 指伸筋腱機能評価

A. 示～小指伸筋腱機能評価

特定指伸筋腱機能度 (%) =

1. Zone 1, 2 に指伸筋腱損傷がある場合 $\frac{\text{患指 DIP} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 DIP} \cdot \text{AM}} \times 100$

2. Zone 3, 4 に指伸筋腱損傷がある場合 $\frac{\text{患指 (DIP+PIP)} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 (DIP+PIP)} \cdot \text{AM}} \times 100$

3. Zone 5~8 に指伸筋腱損傷がある場合 $\frac{\text{患指 TAM}}{\text{対側指 TAM}} \times 100$

B. 母指伸筋腱機能評価

母指伸筋腱機能度 (%) =

1. EPL 腱単独損傷の場合 $\frac{\text{患指 IP} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 IP} \cdot \text{AM}} \times 100$

2. EPL 腱, EPB 腱同時損傷の場合 $\frac{\text{患指 (IP+MP)} \cdot \text{AM}}{\text{対側指 (IP+MP)} \cdot \text{AM}} \times 100$

注：EPB 腱単独損傷の場合の機能評価はできない。